



編集・発行

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1
TEL : 072-957-2121
FAX : 072-958-3291
HP : <http://www.ra.opho.jp>
E-mail : kokyucen@ra.opho.jp



来年4月から、当センターの名称が「大阪はびきの医療センター」に変わります。

事務局長 美濃喜介

来年4月から、当センターの名称が変わることになりました。

当センターは、呼吸器疾患・アレルギー疾患の専門医療機関として「呼吸器・アレルギー医療センター」の名称で親しんでいただけてきましたが、当センターでは、呼吸器疾患やアレルギー疾患だけでなく、それら以外の診療も提供させていただいています。具体的には、循環器内科、消化器外科、乳腺外科、眼科、産婦人科が該当し、多くの患者さまに来院いただいております。地域医療に貢献していると考えています。病院の名称については、これまでからも、よく「乳がんや目の治療、分娩などを取り扱っているのに、呼吸器・アレルギー医療センターという病院名称であるのはわかりにくいのでは」という声をお伺いすることがありました。

こうしたことから、呼吸器疾患・アレルギー疾患だけでなく、幅広い診療を行っていることを表わす名称に変更した方がよいのではないかということで、平成29年4月から病院名称を変更することになったものです。

新しい名称は「地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター」です。

当センターは、かつては「羽曳野病院」という名称であったことから、現在でも昔の名称で呼んでいただくことも多いことから、「はびきの」を用いた名称にすることにしました。（親しんでいただきやすいよう平仮名にして用います）

今後とも、「府立」の病院として、呼吸器・アレルギーの専門医療機関であるとともに、一般医療も充実を図り、地域医療に積極的に貢献していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



忍び寄る肺塞栓症

エコノミークラス症候群だけじゃない、すぐ側にある危険

循環器内科 主任部長 荒木 良彦

20~30年程前からでしたか、エコノミークラス症候群という名前が知られる様になったのは。窮屈な飛行機の座席で長時間同じ姿勢をとるロングフライトでの発症という事で少し話題になったかと。でも、覚えていますか？日本では10数年前の中越地震の時に狭い車中で生活をせざるを得なかった何人もの方々に発症・・・という事で結構知れ渡ったんですね。その後も大きな地震の度にニュースなんかで出てきますよね。一でもね、これを読んでくれてありがたいんですが、あなただって危険かもです。本当は病院でのあれこれの治療中に発症するのが、一番多いんですよ！一

さて、一体どんな病気なんでしょうか。エーッ知らない！？じゃあ少しだけお教えします。

人間の血液ですが、脳卒中や手術後なんかですーっと静かに寝てたり、足の血管が圧迫される様な状態（股関節手術後や子宮筋腫・肥満・妊娠でもあり）や、癌（特に抗癌剤治療中）なんかで血液の性質が恐ろしく変わってしまう事があるんです。つまりサラサラではなく固まりやすくなるんです。拳句血の塊（つまり血栓）が生じそれが大きくなって肺の血管へ流れ込んでしまう。これが「肺塞栓症」なんです。

肺の血管が血栓でつまと最悪は突然死です。少し良くても、一瞬の失神・息苦しさ・胸痛・血圧低下・・・ですが、やはり危険です。大至急治療が必要です。何とか改善を目指して頑張りますが、死亡率14%（少し重症の方では30%）と報告されています。文章書くのが苦手なのでどんな状況の方が要注意か表を見て下さい。予防策なんかも書きたいのですが、紙面が無くなるとかで編集者からダメ！と云われました。またの機会にお会いしましょう。

表（ 要注意な方の状況 ）	◎ 中心静脈カテーテル留置されている方
◎ 手術後や高齢者で長期の安静	◎ 薬（ステロイド剤など使用中の方）
◎ 足などの骨折でギプスの状態	◎ 肥満
◎ 癌（特に抗癌剤治療中）	◎ 子宮筋腫や妊娠中の方
◎ 脳卒中で寝ている期間の多い方	◎ 他 遺伝的体質
◎ 慢性心不全・慢性呼吸器疾患・感染症の方	

〈薬局シリーズ⑫〉からだのしくみと、のみ薬の関係について

薬局 望月千枝

のみ薬は、口→食道→胃→十二指腸→小腸へと順に送られる間に唾液（だえき）、胃液、腸液などの消化液と接して、薬が壊れて中身（主成分）が溶け出します。溶け出した主成分は、一部胃から吸収される場合がありますが、大部分は小腸の粘膜から吸収されます。薬の中には、吸収される際に小腸の粘膜にある酵素（こうそ）によって、一部分解を受けます。この酵素に影響を与えるものの1つにグレープフルーツがあり、血圧を下げる薬の中には、グレープフルーツを一緒にとると、薬だけの時と比べ、薬の吸収量が増え、薬の効果や副作用が強くなる場合があります。また、この分解酵素は数種類存在しますが、同じ分解酵素に影響する薬どうしをのみ合わせた場合も同じことが起こります。これを相互作用（そうごさよう）といい、注意が必要です。

小腸から吸収された後は、門脈（もんみゃく）という血管を通過して肝臓に入ります。薬の成分は、肝臓で分解を受け、体内を循環する血液中に送り出されます。体の色々な場所に運ばれ、効果を発揮しますが、効果が出るのは、のんでから、だいたい20分～30分かかると言われています。

役目を終えた成分は、そのままか、あるいは、再度肝臓で分解を受け、腎臓から尿の中に排泄されるか、あるいは、肝臓から胆汁（たんじゅう）と一緒に便中に排出されます。高齢になると、肝臓で薬を分解する力や腎臓から排泄する力が低下してきて、薬の成分が体

の中に溜まりやすい傾向にあり、薬の効果や副作用が強くなる場合があります。そのため、それぞれ患者さんの体の機能を見て、お薬の量が調節されることがあり、きめられた薬の量をまもり、きちんとのおむことが大切です。



◆◆◆12月の教室案内◆◆◆

◆カンガルー教室	12月 7・14・21日	午後1時30分～	第1会議室
◆アトピーカレッジ	12月 2・9日	午前10時～11時	第2会議室
◆乳幼児アトピー教室	12月 2・9日	午後2時～3時	第2会議室

◆◆◆1月の教室案内◆◆◆

◆カンガルー教室	1月 4・11・18・25日	午後1時30分～	第1会議室
◆アトピーカレッジ	1月 6・13・20・27日	午前10時～11時	第2会議室
◆乳幼児アトピー教室	1月 6・13・20・27日	午後2時～3時	第2会議室